



● RB-161840R / 165分 4,400円 (税込)
(BD 盤は BD-R での販売です)



● TEBJ-57060 / 165分 6,270円 (税込)
(DVD 盤は 2 枚組です)

■ 撮影日 / 2012 年 5 月 18 日 晴時々曇

■ 撮影列車 / 1447D 普通 備後落合行き キハ 120 208

■ 展望区間 / 宍道 (11:21 発) ⇒ 備後落合 (14:15 着)

■ 本編の概要 ■

宍道を発車し、山陰本線と分かれ、南に進路をとる。南宍道を出ると峠越えになり、勾配やカーブが続く、スピードもあまり上がらない。加茂中からは「つ」の字を描くように、大きく東に回り出雲大東を経て木次に向かう。木次からは久野川の渓谷を進み、線内で最長の下久野トンネルを抜ける。下久野は交換設備が撤去されているが、有人だった時代に運転されていた急行列車の廃止や普通列車の減便などで、このような形状になった駅は線内では少なくない。出雲横田を発車し、八川を過ぎると勾配は更にきつくなり、エンジン音を響かせて出雲坂根へ。進行方向を変え、「三段式スイッチバック」に挑むのだが、その様子は前後カメラで収録しているので、仕組みがよくわかる。三井野原まで駆け上がり、広島県に入り、西城川に沿って山間部を橋りょうやトンネルで越えて、芸備線との接続駅である備後落合に到着する。



※ジャケット写真は BD 盤です

- 企画制作・発売元 テラプロプロジェクト
- 協力 西日本旅客鉄道株式会社
- JR西日本商品化許諾済

◆ 展望本編の主なキャプチャ画像 ◆

※本作の映像は 2012 年に収録しています。収録の映像や解説、駅名等につきましては、当時のものですので、あらかじめご承知おき下さい。

※運転士の喚呼音、運転室の操作音、車内放送音を収録しています。



宍道を発車。左側の線路がはがされたホームが、かつて「木次線のりば」だった。



田園地帯や赤系色が特徴である石州瓦屋根の街並が続く。
(南宍道～加茂中)



赤川橋りょうを渡ると、ほどなく出雲大東に到着する。
(幡谷～出雲大東)



木次では上り列車と交換する。構内には木次鉄道部※の車両基地がある。 ※2024 年 6 月廃止



蛇行する久野川の渓谷を走り、久野川を 11 回も渡る。
(日登～下久野)



木次線内で最長の下久野トンネル (2,241m) に入る。
(下久野～出雲八代)



小説「砂の器」で有名になった亀高。右の草叢が交換設備が撤去された跡と思われる。



県境の山が迫ってくる山あいの小さな集落を進んで行く。
(八川～出雲坂根)



出雲坂根に到着。「奥出雲おろち」号※と交換し、この先、三段式スイッチバックに挑む！
※2023 年 11 月運行終了



進行方向を変え、30%の勾配を上って行く。次の三井野原までの標高差は約 160m だ。



雪覆いのある折り返し点で、再度向きを変える。この先も上り勾配とトンネルが続く。



並走する国道 314 号線の「奥出雲おろちループ」に架かる赤い橋が見える。



三井野原は JR 西日本の駅で最も標高が高い位置 (727m) にある。



島根と広島との県境サミットを越えると下り坂となり軽やかに走る。
(三井野原～油木)



山深い区間を、小さな橋りょうやトンネルで越えていく。
(油木～備後落合)



終点の備後落合に到着。無人駅で草生した構内や錆びた側線に一抹の寂しさを感じる。

※キャプチャ画像は、お手持ちのパソコンやテレビ等の環境により、実際の映像より色味が違って見える場合がございます。

■ 前方展望 (R) シリーズは、テラプロプロジェクトの登録商標です。

パンフレット作成 2025 年 2 月